

県民ひろば

2026年10月10日

No. 78

発行/県民クラブ
連絡先/大分県議会
大分市大手町☎(097)536-1111(代)

http://
kenmin-club.com



「安心・安全な避難所環境」の改善が急務

県民クラブ 高橋 肇(臼杵市)

県議会第3回
定例会(9月議
会)が、9月3
日から24日(会
期22日間)の日
程で開会されま
した。今回、一

般会計補正予算の2案を含め、議案27
件その他の報告28件が上程されました。

熊本地震の影響が続く県内観光の需
要回復のための「九州ふっこう応援割」
や、高校教育改革推進の実行計画の策
定や教育環境の整備、さらには介護人
材の確保や半導体関連産業の企業力等
の調査分析事業、自動車関連産業の助
成拡充のための予算案が提案され、可
決されました。

さて、9月は関東大震災発生の月にち
なみ「防災の月」です。7月28日に発生
した熊本地震や8月13日と27日に発生し
た千葉県と北陸地方での豪雨災害など、
近年は地震や台風のみならず短時間の大
雨や集中豪雨などの自然災害が、場所
を選ばず全国各地で発生しています。海
外に目を向ければ、ネパールでの氷河崩
落による大規模土石流など、その被害は
年々大きくなっています。

今回の定例会でも、このような環境
変化や災害に関わる一般質問が、多く
の議員から出されました。今後予想さ
れる大災害に対する大分県としての防
災減災の取り組みや準備状況などが問
われました。

その対策の多くは、電源や水の確保、
体育館の空調設備の整備、段ボールベッ
ドやトイレカーの配置など、一次避難
所に避難してきた被災者が、少しでも

安心してくつろげる環境を用意しよう
とするものです。いつ、どこで、どの
ような自然災害が起こるかわからない
現在、県が想定できるだけの避難環境
の整備を進める姿勢は非常に大事です。
しかし、能登半島地震や熊本地震でも
「車中泊」をする被災者が多く、災害で
直接亡くなった人より「災害関連死」
の人の方が多かった事実があります。

よく比較されるのが、台湾の災害時
の対応です。2024年の台湾での大
規模地震では、地震発生からわずか2
〜3時間で避難所が設営されました。
被害が大きかった花蓮地域の避難所では、
冷暖房完備、簡易ベッドが備えら
れたプライバシーに配慮したテントが
設置され、女性専用や特別支援者専用
の寝室も設置されたといわれています。3時
間後には被災者を受け入れ、4時間後
には設備がほぼ整いました。災害大国
のイタリアでも同じような対応ができ
ています。

しかし、同じ災害大国である私たち
の日本は、避難所は相変わらず学校の
体育館。空調設備はようやく整いつつ
あります。避難者はみんな雑魚寝。間
仕切りもなくプライバシーも保たれて
いません。女性への性被害もあるとい
います。阪神・淡路大震災から30年以
上経つというのに、避難所環境は改善
されていません。

災害が発生することを見越し、避難
した県民が安心安全な避難所生活がで
きる環境改善が一刻も急務です。私た
ち議員も、国や県行政に一層力強く働
きかけていかなければいけないことを、
改めて肝に銘じる9月でした。